

平成30年12月1日(土)

しばやまいせき

芝山遺跡 (第17・19次) (I・M地区) 現地説明会資料

調査場所 城陽市富野中ノ芝ほか
調査期間 I地区；平成29年9月11日～30年2月29日
M地区；平成30年7月9日～12月中旬(予定)

公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター
〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40-3
URL <http://www.kyotofu-maibun.or.jp>

1. はじめに

芝山遺跡は、城陽市東部に広がる丘陵上に位置し、東西約950m、南北約840mの範囲に広がります(第1図)。これまでの調査では、古墳や奈良時代の掘立柱建物、道路状遺構などが見つかります(第2図)。

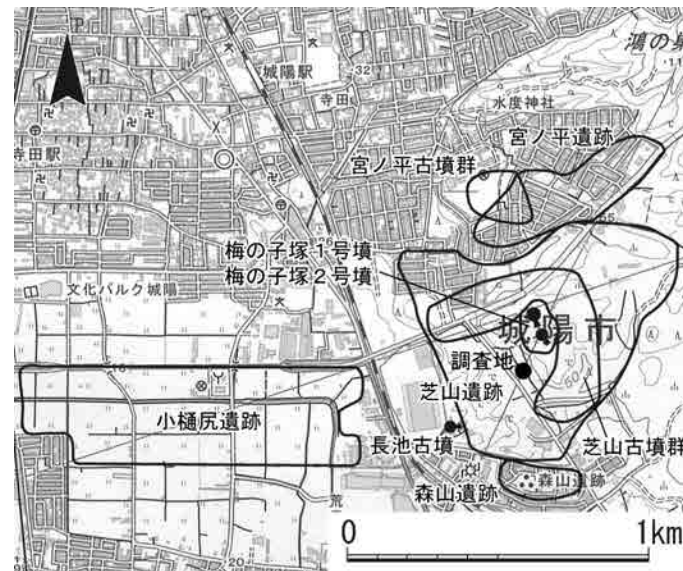
奈良時代の道路状遺構は400m以上にわたって一直線に造られていると推測され、平城京と北陸・東日本とを結ぶ北陸・東山併用道と推定されています。多くの掘立柱建物が道路に沿って見つかり、大多数の建物は主軸方向が北から西に振れています。遺跡の北側のA地区(平成14・15年度調査)では南北方向の建物が計画的に配置されています。これら南北方向の建物群は「駅家」(主要な官道に設けられた役所で、宿舎や荷物の運搬のための馬を提供した)と考えられています。

新名神高速道路整備事業に伴い、平成27年度から発掘調査を実施しており、今回はI地区とM地区の調査成果を報告します。

2. 調査の概要 (第3図)

古墳～飛鳥時代の堅穴建物と奈良時代の掘立柱建物、丘陵を整形した平坦面などを検出しました。**堅穴建物** 方形の堅穴建物を3か所で7棟を確認しました。うち2か所は複数の堅穴建物が重複しており(堅穴建物1～3、4～6)、それぞれ2回の建て替えが認められます。

掘立柱建物 道路状遺構の東側で、奈良時代の掘立柱建物9棟を検出しました。3間×5間の建物



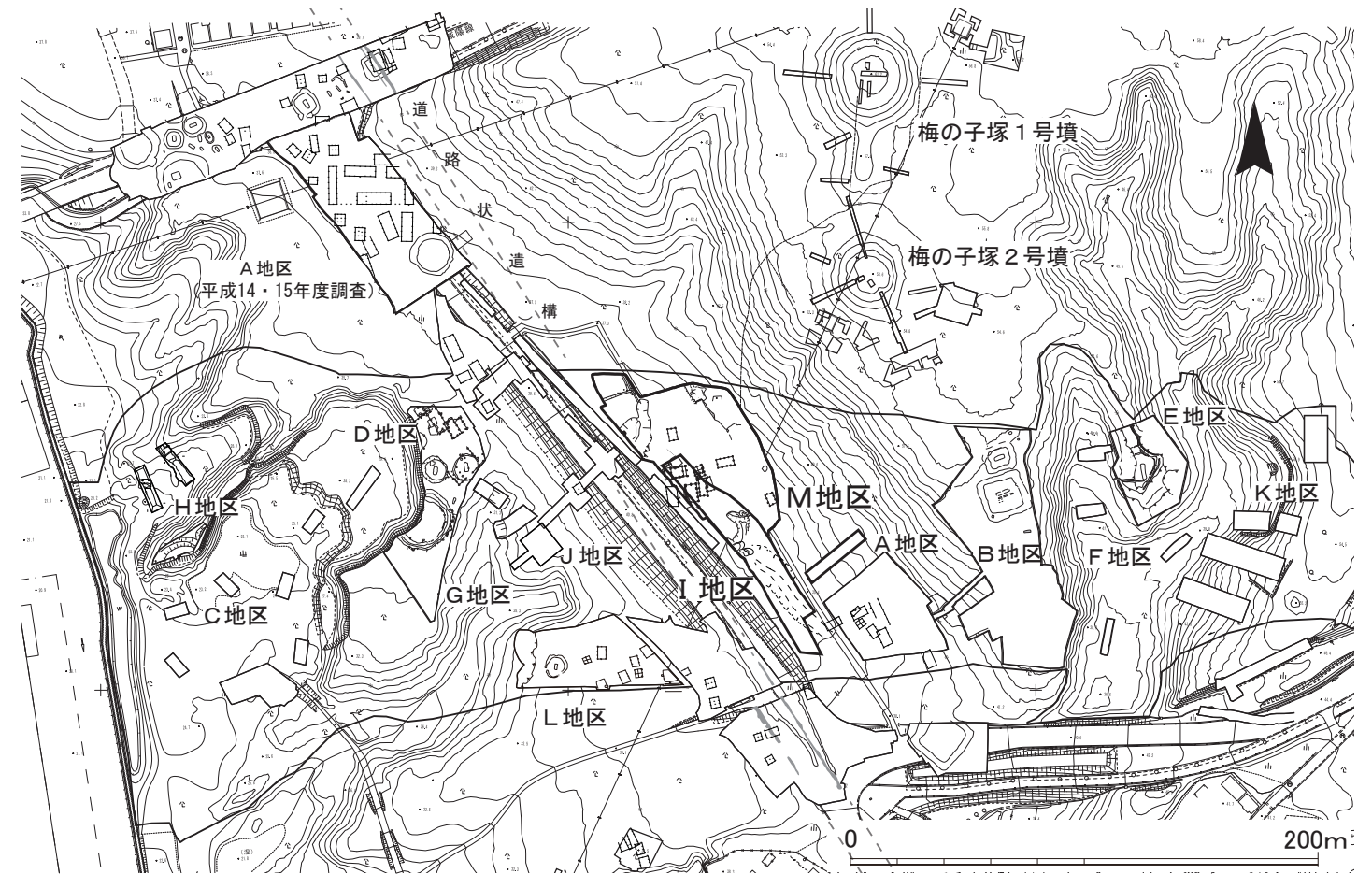
第1図 調査地位置図および周辺遺跡分布図
(1/25,000 宇治)

が最大で、2間×3間、2間×4間のものがあります。掘立柱建物の主軸の方向から、3群に分けられます。

I群 主軸方向が北から西に約5°傾く建物群です。調査地の中央部に3棟あり、道路状遺構に近接した場所に位置します。東西方向の建物2の南側に南北方向の建物3・4があります。

II群 主軸方向が北から西に約15°振れる建物群です。建物1・5・6・8が該当します。I群と重複して建物6・8、北側に離れて建物1、東側に東西方向の建物5を検出しました。I群の建物2とII群の建物8、I群の建物4とII群の建物6のそれぞれの柱穴が重っており、その重複関係からI群の建物よりもII群の建物が新しく建てられたことがわかりました。

III群 主軸方向が北から西に約25°傾く建物群で



第2図 芝山遺跡検出遺構配置図

す。建物7・9があります。建物7は2間×3間の総柱建物で、倉庫と判断されます。建物7の柱穴とI群の建物4の柱穴とが重複しており、その重なりから、建物7は建物4よりも新しいと考えられます。建物9は2間×3間の南北棟で、調査地の南東部にあり、道路状遺構から離れた地点で検出しました。建物7の柱穴から8世紀中葉の土器片が出土しました。

平坦面 調査地の北東部で検出しました。東から西に下る丘陵の先端部を整形して、検出長約40mにわたって平坦面を造り出しています。この整形の際に古墳時代後期～飛鳥時代の堅穴建物2の一部を削平していることや、平坦面で8世紀前半の土坑を検出していることから、奈良時代前半に造成されたと判断されます。

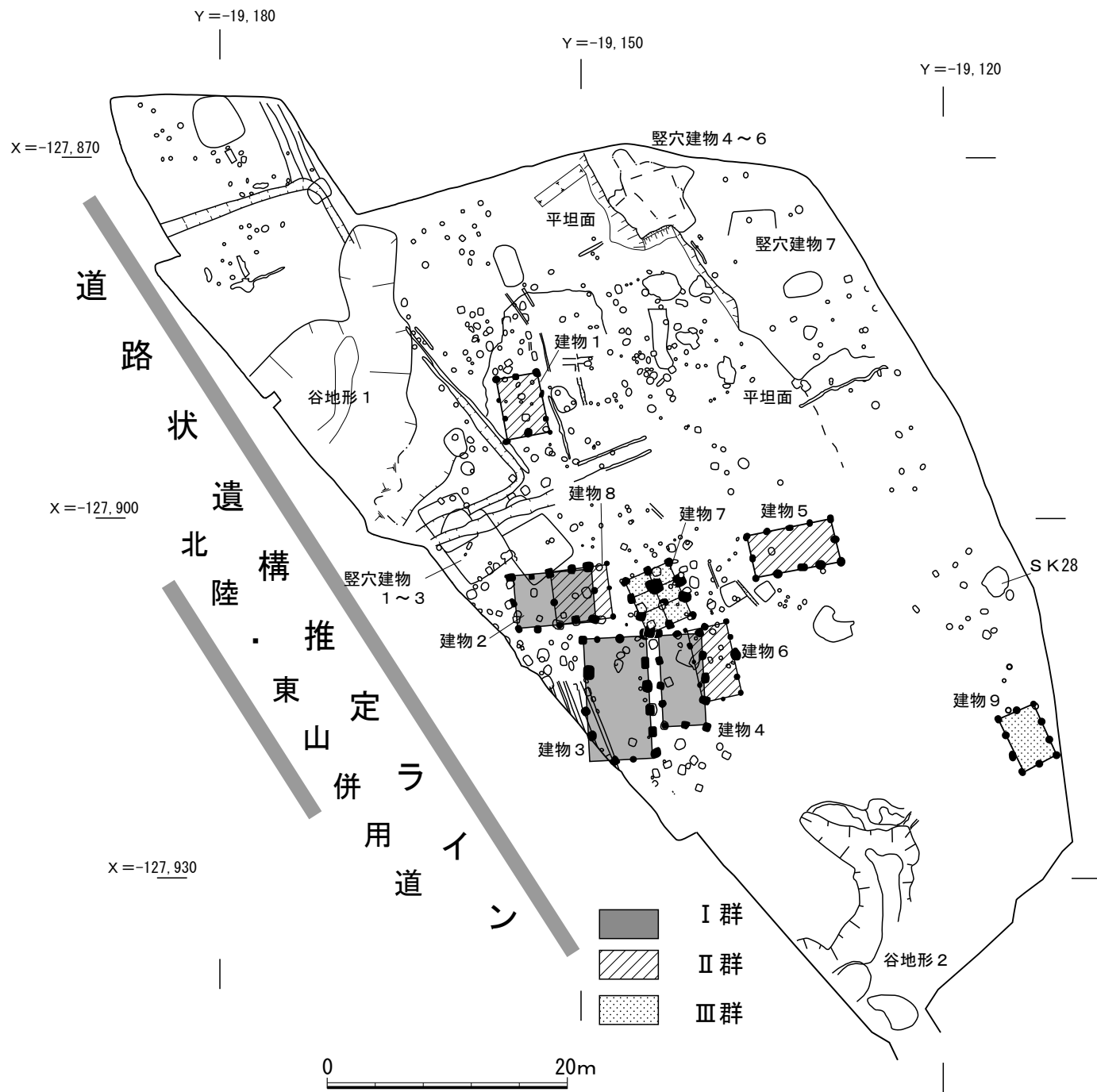
土坑SK28 調査地の東辺中央部で検出した土坑です。内部から土器片が多く出土し、廃棄土坑と判断されます。8世紀中葉のものと判断されます。出土遺物には土師器、須恵器などがあります。

3. まとめ

奈良時代の掘立柱建物9棟は、建物の方位から

3群に分けられ、それぞれの群が同時期の建物と考えられます。柱穴の切り合い関係から、北で西に5°振れるI群が最も古く、II群・III群が新しい段階のものとなります。II群とIII群は柱穴の重複が認められませんが、出土遺物から、II群が古く、III群が新しいと判断されます。これらのことから、今回の調査地では、奈良時代にはまず南北方向に近い建物が建てられ、その後、建物が建て替えられるたびに徐々に西に振れる角度が大きくなり、8世紀中葉までに建物は道路状遺構に平行する方向へと変化したと推定されます。平坦面はI群またはII群の建物が建てられた段階で造成されたと考えられます。

芝山遺跡のA地区(平成14・15年度調査)で検出された南北方向に建てられた建物群は奈良時代前期のもので、南北方向に正しく向くことや整然と配置されていることから、役所的な性格と考えられています。今回の調査により、奈良時代の建物は時期が下るにつれて道路状遺構や地形に規制された配置へと変遷していくことがわかり、この遺跡の建物群の性格を考える上で重要な知見となりました。



第3図 I・M地区で検出した遺構 (S=1/500)

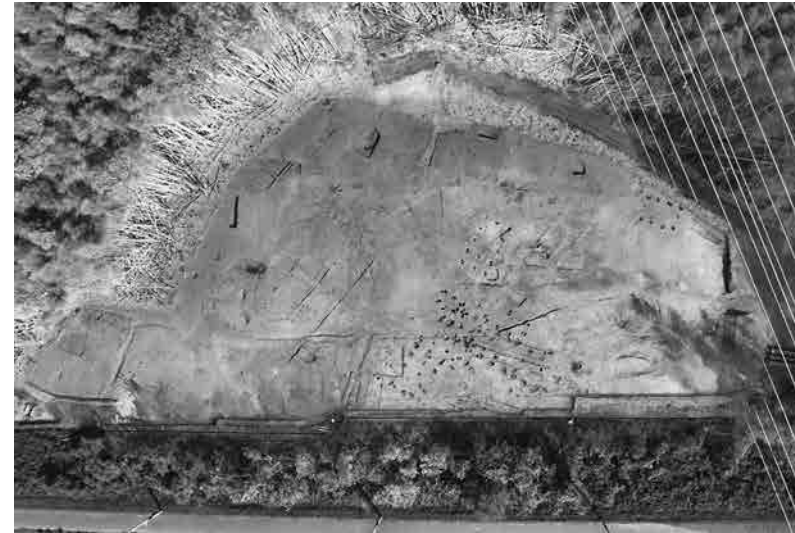


写真1 調査地全景 (上が北東方向)



写真2 調査地北側 (南東から)

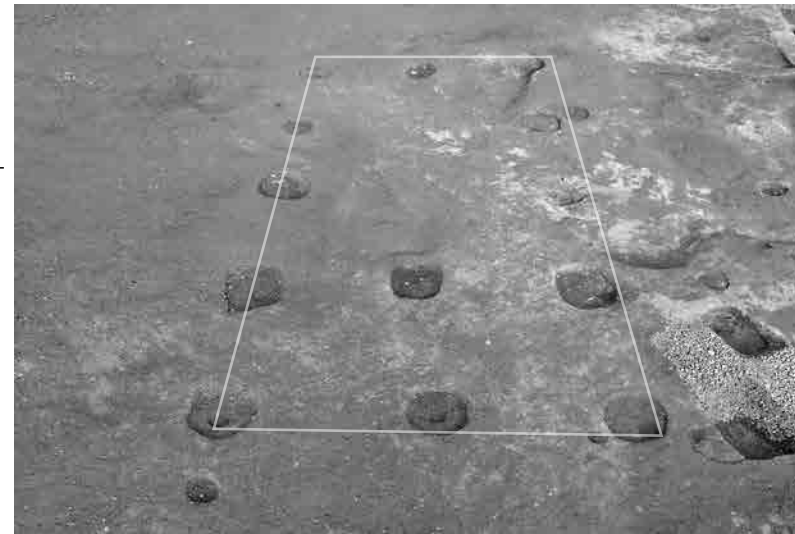


写真3 建物5検出状況 (西から)



写真4 土坑SK28検出状況 (西から)

付表 芝山遺跡関連年表

